

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	おおいたけんりつおおいとうえのがおかこうとうがっこう				②所在都道府県	大分県
26～30	① 学校名	大分県立大分上野丘高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制・普通科。各学年8クラス・320名。全校生徒24クラス・960名。	
普通科	320	160	160		640		
⑥研究開発構想名	大分上野丘グローバル・リーダー育成プロジェクト						
⑦研究開発の概要	(1) 「課題研究」の指導方法・教材の開発及び実践 (2) 国際的な視野を涵養するグローバルな体験の創出 (3) 生徒のグローバルな成長を測るルーブリック評価の開発						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 目的) 多文化共生の視点をもって主体的に考え発信のできる、国際社会でリーダーとして活躍する資質を持ち自己を確立した生徒を育成する。 目標) 国際学生や地元企業との連携により、底の深い「課題研究」を進めること等を通じて、論理的・批判的な思考力の育成、英語で表現する力の向上、国際的に活躍しようとする意欲や日本や大分県のことを学ぼうとする意欲の涵養を図り、全ての生徒が国際的に活躍する力と意欲を備えることを目指す。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 現状の分析) ○大分県は「アジアに開かれた飛躍する県づくり」を標榜し、多くの分野で各国との連携強化に乗り出している。県教育委員会は「大分県グローバル人材育成推進会議」を立ち上げグローバル人材の育成を目指している。本県には立命館アジア太平洋大学（APU）があり、人口当たりの留学生比率は日本一である。 ○本校は創立129年を迎える大分県屈指の伝統校であるが、地理的環境もあり、グローバル化を実感し世界に目を向ける機会や自らの意見を発信することは少ない。英語が世界で活躍するために必要なコミュニケーションツールという意識も低い。これらのことは、データからも明らかである。 ○こうした現状を踏まえ、大学や企業と連携して、全ての生徒に「国際的に活躍する力と意欲」を備えさせていくことが本校の課題である。					
		研究開発の仮説) [仮説1] グローバルな社会課題やビジネス課題について、自ら考えを整理し表現するディスカッション型の授業形態による「課題研究」を3年間通して行うことにより、論理的で批判的な思考力や表現力が身につく。また、APU国際学生や地元企業との日常的なやりとりの中で「課題研究」を進めることにより、英語で表現する力の向上や、国際的に活躍しようとする意欲、日本人や大分県民としてのアイデンティティの深まりが生まれる。 [仮説2] 海外での外国人との対話や、世界トップレベルの学生と交流する機会、グローバルなビジネスに触れる体験等を積み重ねることにより、グローバルな社会・ビジネスへの認識や課題意識が深まり、国際的に活躍しようとする意欲が高まる。同時に、日本人としてのアイデンティティの深まりや英語でコミュニケーションする力の高まりが生まれる。 [仮説3] 生徒の課題解決力を測る評価方法を開発し、教員間での共有を図ることで、生徒の力の客観的な評価・分析に基づき、課題研究をはじめとした教育活動の改善を図ることができる。					
		(3) 成果の普及 ア 県内高校とのSGHコンソーシアムの形成 イ 県内中学校への取組内容及び研究開発成果の紹介					

		<p>ウ 「課題研究」レポートの印刷配布  エ ホームページによるSGHの取組の情報発信及び学校パンフレットの作成  オ 「おおいた教育の日」における一般公開</p>
<p>⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容  ベトナムやインドネシアと大分県の関連性を条件に「観光・経済・エネルギー」といった領域から考察を行う内容  〔具体的研究テーマ〕  ア インドネシアと大分県の再生エネルギー・ビジネスの考察  イ 「おんせん県大分」にベトナム人観光客を誘致する観光政策についての考察  ウ ベトナムに大分のアンテナショップを設置するための考察</p> <p>(2) 実施方法・検証評価  ア アジア諸国と大分県の関係性やグローバル社会を俯瞰するための単元開発  イ ディスカッション型授業及び教材の研究開発  ウ APU大学教員や国際学生との日常的・継続的な連携  エ 講演、インタビュー、講評による地元企業との連携  オ 国内外でのフィールドワークによる課題の追究  カ APUやハーバード大学生と連携したプレゼンテーションの機会の提供</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等  第1学年：「課題研究Ⅰ」（4単位）を「現代社会」（2単位）と「社会と情報」（2単位）の代替として全員を対象に実施。  第2学年：「課題研究Ⅱ」（3単位）を「英語表現Ⅱ」（2単位）の代替及び「総合的な学習の時間」（1単位）の名称変更として、SGHコースを対象に実施。  第3学年：「総合的な学習の時間」（1単位）を「課題研究Ⅲ」（1単位）と名称変更してSGHコースを対象に実施。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価  ○国際的な視野を涵養するグローバルな体験の創出  ア 海外修学旅行での現地高校生との対話による交流の充実  イ 世界トップレベルの学生や国際人と交流する機会の創出  ウ グローバル・コミュニケーション部の創設  ○USGループリックの開発  課題解決力を評価するループリックの作成・実践と教員同士や生徒との共有</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法  ○環境整備について  ・ 「グローバル・ラボラトリー」やディスカッションルームの開設  ・ テレビ会議のシステム構築  ・ 英文図書・英字新聞の開架と「国際社会の諸課題とその解決」図書の購入  ○教育課程課外の取組内容・実施方法  ア カリフォルニア大学バークレー校への研修派遣  イ AIU高校生交流プログラムへの応募・参加  ウ 「大分国際車いすマラソン」等地元開催の国際化関連事業との連携・参加</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入）  なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>なし</p>

ふりがな	おおいたけんりつ おおいたうえのがおか こうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	大分県立大分上野丘高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	500人
	SGH対象生徒以外:		1人	28人	人	人	人	300人
目標設定の考え方: SGHの活動を通して生徒の8割以上が社会に目を向け、自己を磨かせるという観点で目標値を設定した。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		4人	4人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 修学旅行以外で約2割程度の生徒が海外に渡航することを目標に設定した。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		1%	21%	%	%	%	90%
目標設定の考え方: SGHの最大の目標がこの項目であり、5年後には全員が国際的に活躍することを目指していきたい。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:		1人	28人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 英語を使つての大会で県のベスト4程度を想定し、現在の入賞率を元に5年後の数値を設定した。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		1%	28%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: レベルはGTECLレベル 5～6だと判断し、5年後には卒業生の60%がこのレベルに達するよう設定した。								
日常的(週2～3回)に、英文による新聞や雑誌を読む生徒の割合								
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		1%	7%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: SGHを通して全員の生徒が英字新聞レベルを日常的に読むようになることを目指す。								
英語を使って積極的に他国の人とコミュニケーションを図れる生徒の割合								
g	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		1%	29%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: すべてのSGH対象生徒が抵抗感なく他国の人と日常的な会話ができるレベルの語学力習得を目指していく。								
自らの課題に関する情報を、図書館やインターネット等を駆使して収集・整理できる生徒の割合								
h	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		1%	44%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: すべてのSGH対象生徒が課題研究を通して問題解決のためのスキルを全員が身につけることを目指す。								

収集した情報をもとに分析・考察を深め、論理的・批判的な文章が書ける生徒の割合									
i	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	- %	29%	%	%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: SGHを通して、全員が論理的で批判的な思考力を身につけることが必須の条件だと考える。									
自分の考えを、ある程度まとまった英文(A4・10枚程度)で論述することのできる生徒の割合									
j	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	- %	6%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 1~3年次のレポート作成を通して、英文による論文作成の基礎が全員に身につけることを目指す。									
レポートや論文の内容を簡潔に要約し、効果的にプレゼンテーションできる生徒の割合									
k	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	- %	21%	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 自己の考えをわかりやすく相手に伝える情報発信能力は全員が身につけることを目指す。									
日本や大分のことを積極的に学び他者に伝えようとする生徒の割合									
l	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	- %	51%	%	%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: SGHの活動を通して全員に日本人のアイデンティティの大切さを体得させることを目指す。									
グローバル化に対応する教育の必要性を感じ、自らの授業改善に取り組んだ教員の割合									
m	全教員:		- %	48%	%	%	%	%	100%
	目標設定の考え方: 教員のプロジェクトに対する早期の共通認識を図ることを目指し、3年後の100%を設定した。								
グローバル化に対応する教育に興味関心を持ち、研究発表会等のSGH関連行事に参加する保護者の割合									
n	SGH対象生徒保護者:		- %	- %	%	%	%	%	70%
	目標設定の考え方: 保護者に対してプロジェクトの理解を求めていくことが非常に重要だと考えてこの目標を設定した。								
外国語によるホームページへのアクセス回数									
o			0回	回	回	回	回	回	10000回
	目標設定の考え方: HPの整備と同時にそのアクセス回数をカウントし、実践がどの程度発信できているかの指標とする。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		30%	30%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHを通して国際化に重点を置く大学(難関大学、APU)への進学率を従来の2倍に増やすことで進学実績の向上を図りたい。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校卒業後、直ちに海外へ進学を希望する生徒がないことを考慮し、この目標値を設定した。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究を通して学んだことが進路を決定する要素となることは必然であると考えた。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学及び海外研修の期間を1年以上と設定し、毎年卒業生の1割程度が行くと考えて設定した。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方: 春期の海外研修旅行を中心に、5年間で修学旅行以外で200名の参加者を目標とする。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方: 夏休み等の長期休暇を利用した国内研修をはじめ、5年間で200名に研修参加者を増やしていく。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方: 年次を追って1校ずつ増やし、5年間で5校程度の連携校を確保していく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	150人
	目標設定の考え方: APUとの連携を中心に、課題研究において年間30名程度の外部人材の招聘を実現していく。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方: 地元企業との連携を模索し、5年間で年間100人程度の外部講師招聘を実現していく。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方: 英語弁論やディベート、スピーチコンテスト等を想定し、各学年年間6名～10名の参加をさせていく。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	人	0人	人	人	人	人	人	5人
	目標設定の考え方: グローバルな生活環境を実現する目的で、毎年1名程度の受け入れを考えていく。							
h	先進校としての研究発表回数							
	回	0回	回	回	回	回	回	10回
	目標設定の考え方: レポートの成果発表会、実践報告会等の機会を5年間で年間10回程度まで増やす。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方: 初年度に整備し、積極的に情報を発信する場を作っていく。							
j	課題研究に関する一人当たりの年間図書貸出冊数(平均)							
		3冊	冊	冊	冊	冊	冊	25冊
	目標設定の考え方: 年間貸し出し数3冊(一人当たり)という状況を脱却し、読んで考える生徒の育成を目指す。							
k	本校が指定する「SGH図書50選」(必読課題図書)のうち、読了した本の数(平均)							
		0冊	冊	冊	冊	冊	冊	25冊
	目標設定の考え方: 本校独自のSGH課題図書を50冊選定し、1・2年次で半分の25冊を読了するよう指導していく。							
l	地元開催の国際的行事・イベント(国際車いすマラソン等)へのボランティア参加生徒数							
		5人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: 県内で行われるイベントにも積極的に参加させ50名程度が常時参加する状況を目指す。							

m	課題研究の成果物(レポートや作文等)の外部への投稿数						
		0本	本	本	本	本	25本
	目標設定の考え方: レポート等の成果物で優秀な作品を中心に、25本程度毎年投稿できるようにレベルアップを図る。						
n	ディスカッションやディベートを取り入れた年間授業実施回数						
		21回	回	回	回	回	100回
	目標設定の考え方: 論理的・批判的思考力育成に向け、ディスカッション授業等の年間実施数をのべ100回程度まで増やす。						
o	連携する国際的大学の主催する行事・研修会等への参加生徒数						
		0人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: APUの本学で実施されるイベント・行事等にも積極的に参加し、双方向で事業連携していく。						
p	SGHに係る活動内容を知り、自分も取り組みたいと思って入学してきた生徒数						
		0人	人	人	人	人	200人
	目標設定の考え方: 中学生にも積極的にSGHの内容を知らせ、志を持った生徒が入学定員の半数以上を占めるようにしたい。						
q	グローバル人材の育成を目的とした県内外の高校との交流回数						
		0回	回	回	回	回	10回
	目標設定の考え方: 本校での取組を大分県の高校並びに九州各県の連携校にも敷衍し、グローバル人材育成に寄与する。						
r	インターネット回線を利用したテレビ会議の実施回数						
		0回	回	回	回	回	20回
	目標設定の考え方: 海外の学校を中心に、テレビ電話を使った会議等を積極的に行い、年間20回程度開催を目指す。						
s	保護者や地域の方々への年間授業公開回数						
		0回	回	回	回	回	5回
	目標設定の考え方: SGHの推進に当たって保護者及び地域の方々への理解・協力は欠かせないと考えこの数値を設定した。						
t	教員のSGHに関する国内外研修回数						
		0回	回	回	回	回	10回
	目標設定の考え方: 生徒のスキルアップと同時に教員の研修も実施する。年間10回程度の研修機会を確保したい。						
u	本校への視察受け入れ回数						
		18回	回	回	回	回	40回
	目標設定の考え方: 既に年間20校程度の受け入れを行っているが、2倍の40校まで視察を受け入れ情報の発信等を目指す。						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	960	960					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							